

遠賀川流域活動報告

遠賀川では3月から「サケの稚魚」の放流が始まります！

サケって北国のイメージが強いですが・・・

かつて遠賀川では、秋になるとサケが川を上っていく様が見られました。しかし、筑豊に石炭が見つかり、石炭産業が盛んになると、石炭を川で洗っていたため、川は「ぜんざい川」と呼ばれるほど黒く濁ってしまい、上ってくるサケはいつしかいなくなっていました。

そして時は流れ、川の水が徐々にキレイになりはじめた昭和53年に、一匹のサケが突然に帰って来ました。この事がきっかけとなり、遠賀川を再びサケが上ることができるよう川に蘇らせる活動がはじまりました。

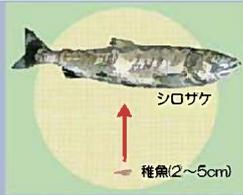
ここで基礎知識：サケの一生とは



秋に産み付けられた鮭の卵から二ヶ月ほどでふ化した稚魚



春先には、北の海を目指して旅立ち、4～5年で60～80cm程で成長します。そして、産卵の時期を迎えると故郷の川へ帰ってきます。



シロサケ

稚魚(2～5cm)



故郷の川で産卵が終わるとその命を終え、死んでしまいます。

遠賀川に帰ってくるサケは新潟産！？

遠賀川で放流されるサケの卵は、新潟県にある三面川（みおもてがわ）で捕れたサケから得たものです。

三面川では、250年前、青砥武平治（あおとぶへいじ）という先駆者によって、世界で初めて鮭の回帰性が発見されました。それから、鮭の天然産卵を保護する種川制度が取入れ、サケ資源の保護増殖に努められている所です。



写真1：三面川の伝統的な居繰網漁（いぐりありりょう）



採卵風景

第30号
平成25年3月

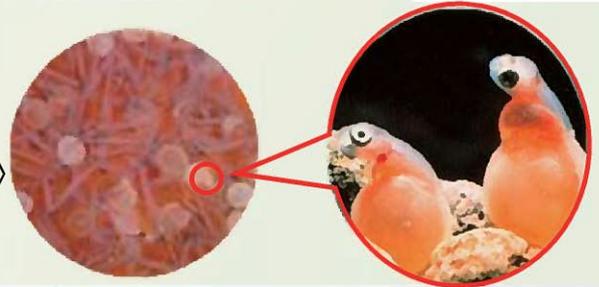


受精卵が20万粒！

準備万端。今年のサケ（稚魚）も元気一杯 水槽で待機中！



①12月13日、サケのふ化場に新潟から卵が送られてきました。早速、孵化器に移し孵化を開始しました。



②12月23日、完全にふ化しました。ふ化器内で順調に育っていた発眼卵はほとんど”へい死”すること無く、一斉にふ化しました。

遠賀川各流域で、サケの放流が3月3日より始まります。



遠賀川の様々な場所で、幼児から、一般まで、幅広い年齢層が参加して稚魚の放流が行なわれます。サケが気持ちよく帰ってこられるように、放流する前に、川をキレイにする取り組み（清掃や、草刈り）を行ってから稚魚を川に返します。興味がある方は、下記までご連絡ください。

「遠賀川源流サケの会」0948-57-4110

サケのことをもっと詳しく知りたくありませんか？

「遠賀川源流サケの会」では、放流支援のみならず、サケの生態や、サケそのものを通じて生き物の尊さや自然の厳しさをレクチャーしています。サケがもっと好きになりますよ。



③1月20日現在、ついにサケの稚魚が泳ぎ始めました。これから、3月の放流を目指して、海まで泳ぎきれぬ力を今蓄えています。



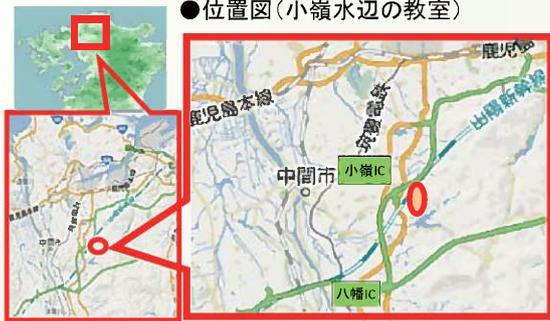
詳しい情報はwebで!!「遠賀川河川事務所」のHP版の「流域だより」により詳細な情報と、たくさんの写真も掲載されています。※検索画面において、遠賀川流域だより **ダウンロード** で検索してください。



～メダカ池 が出来るまで～小嶺自治区メンバーのふりかえり記

はじめに：北九州市八幡西区小嶺地区の、八千錡神社（やちほこじんじゃ）の鎮守の森たる里山には、四季折々の美しい景色が広がる広葉樹や竹林が保たれ、段々畑から水をたたえる“ため池”まで、子供の頃のふるさとの原風景がそのまま残されています。この恵まれたロケーションの中に「水辺の教室（メダカ池）」があります。

●位置図（小嶺水辺の教室）



八千錡神社 ため池には山からの豊富な水が集まります。

※1 生物が棲みやすい生息空間

◎ Chapter 1 「きっかけは突然に・・・」

「メダカが絶滅危惧種に指定される」と新聞の一面を大きく飾ったのが平成11年の2月でした。「そういえば、小さな頃、この辺にはたくさんのメダカがいたけど、最近ではめっきり見かけなくなったな・・・」自治会メンバーの一人は、知らず知らずの間に周りの自然がなくなっている事に気づきました。



宮田の米の一部は神様にお供えされました。

折しも、時を同じくして、自治会で管理している“宮田※2”の減反が持ち上がり、自由に使える広い土地と、潤沢で、且つキレイな水源（ため池）がすぐ近くに揃っている事を知ると、「この土地をメダカの育成に使えるか」と思いました、自治会メンバーに相談したところ一様に賛同し、協力を約束してくれました。

そして、地元の企業や、小学校、更に行政にも働きかけ、メダカの棲める池（ピオトープ）作りはスタートしました。



昔は、近くの小川でメダカを見つける事ができました。（イメージ写真）

※2 神社に米を奉納するために隣接している田んぼ

◎ Chapter 2 「とりかかったのはよいけれど・・・」

まずは、今あるこの場所で、どんなことが出来るのか、どんなもの（施設）が必要なのか、試行錯誤が始まりました。そこで、地元の小学生に、理想となる「メダカ池」の絵を描いてもらいました。

発想力豊かな子供たちの絵は素晴らしく、早速その絵を、設計会社（もちろんボランティア）へ持ち込み、子供達の絵を参考にし、更に元の地形を活かして、具体的な設計図にする事ができました。

メダカ池の設計図

子供たちの絵

図

完成予

- ・濃い青色は水深の深いところです。
- ・元の地形を利用して、高い所から低い所へ水を流します。
- ・水ぎわには植物を植えます。
- ・動線を考えて橋を設置します。



◎ Chapter 3 「メイド・イン・小嶺を目指して」



完成直後のメダカ池

作らなければならない大きな3つの施設は、池と池とを結ぶ橋、安全のための柵、土が流れ出さないための護岸です。そこで、こだわったのは、“地元の資材”を活かす事でした。

里山から橋の構造材となる大木と、柵を組み護岸を築く竹を伐採し、その他必要な資料も、自治会メンバーの尽力によって揃える事ができました。

そして、作業も終盤を迎える頃には、メダカ池の絵を描いてくれた小学生達がバケツで土を運ぶなど作業にも参加してくれ、約5ヶ月（平成11年11月～12年3月）をかけて完成する事ができました。

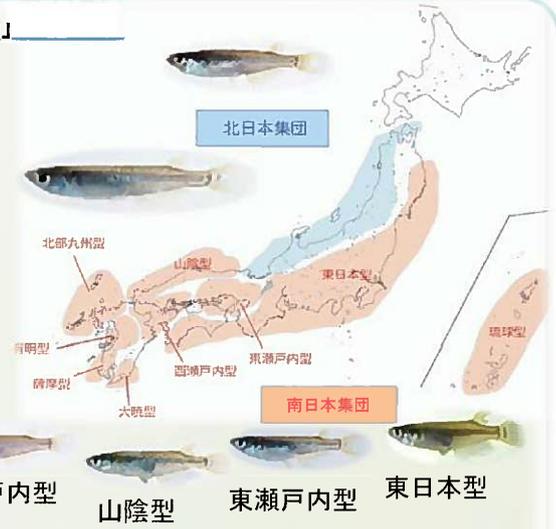
自治会メンバーが協力して困難な作業を行いました。

◎ Chapter 4 「同じなようで同じでない。奥が深いメダカの種類」

施設が出来上がると、次はメダカの確保です。メダカは、行動範囲が限られており、他の地域のメダカとの交流が無いので、同じ地域（エリア）のメダカは古代から変わっていません。メダカは、同じように見えて同じでないのです。

ちなみに、全国のメダカの分布は、右記のとおりですが、最近では知らずに他地域へ持ち出し放流する者も多く、古来からの種を守ることが難しくなっています。

この池のメダカは、“DNA鑑定”をして、地元北九州地域に古来から生息している種を探し出し放流しました。



◎ Chapter 5 「メダカの学校は池の中？」

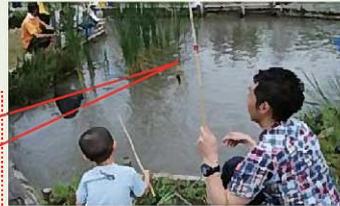
小学校では、5年生になると、動物の誕生という単元があり、メダカを育てて卵を産む様子や、卵が成長する過程を観察し、命の尊厳を学ぶ授業が実施されています。

ほとんどの学校では水槽を使って教室の中でメダカを観察する事になりますが、このメダカ池は、自然のメダカを実際に観察できる“貴重な環境学習の場”となります。



毎年9月には、“メダカ捕り”とあわせて、池の問題児ザリガニの駆除を兼ねた“ザリガニ釣り”などのイベント“めだか祭り”が開催され、家族でも楽しめます。

また、メダカは、“里親申し込み制度”を実施しており、地元の方であれば持ち帰りも可能です。



ザリガニは持ち帰ります。

地元の恒例行事です。

“池のやっかいもの”ザリガニ

いつの間にか棲みつけたザリガニは、メダカを食べるだけでなく、護岸の横に巣穴を掘ってしまうので、池の水が外に漏れてしまいます。



◎ Chapter 6 「12年ぶりのリニューアル」



○新しくなったポイント1「護岸と橋の強化」：

ザリガニが巣を造るために護岸に穴を掘り、水が漏れるようになりました。橋も長く使用していた事もあり、表面が削れ、連結部も弱くなってきました。そこで、里山から新たに竹を切り出し、護岸を直し、橋も同様に里山の木で架け替えました。

○ポイント2「たまった土と、繁茂しすぎた植物を取り除く」：

ため池から来る水には、少しずつ土が混じり、いつしかメダカ池が埋まってしまう。池の周りには外来種が生き茂り、在来種は駆逐されてしまいました。そこで、積もった土をさらい、外来植物を取り除きました。

リニューアル後のメダカ池。



◎ Chapter 7 「メダカ池を通じて伝えたい事」

自治会のメンバーは「今まで12年間の活動が大変だったが、子供たちの笑顔と、みんなの協力で続ける事ができた。」「昔は、身近に田んぼや、小川があり、豊かな自然の中、遊びながら生き物と共存し、色々な命が身近にあった。そんな環境を今の子供達に知ってほしい。」と熱いメッセージを語られました。

今回ご紹介した「水辺の教室」。学校の環境学習の場として、又は自然に親しむ場として、自由に活用できるそうです。興味のある団体、個人の方は、小嶺自治区会水辺の教室までご連絡ください。小嶺 水辺の教室

○加来 重美 (093-612-6672) 今村 高良 (093-612-7593)



遠賀川事務所からのお知らせ

鞍手町・直方市において、川を掘って（河道掘削）堤防を大きくする工事を実施しています。

●工事の位置図



近年、遠賀川流域では、堤防が壊れるなど重大なおそれのある水位（はん濫危険水位）を超える大雨がたびたび降っています。そこで、川があふれないように、より安全に水が流れるようにするために、現在、

遠賀川の河口から12.4 km上流付近で、大きな2つの工事を実施しています。

まず1つ目は、河道掘削（川の土をゆるい勾配で掘る）工事と、2つ目は、堤防補強（堤防を強くする）工事です。

川を掘って水を流れやすくし、掘った土で堤防を大きく壊れにくくします。また、ゆるく土を掘ることで色々な水位ができ水ぎわの植物を繁茂させます。

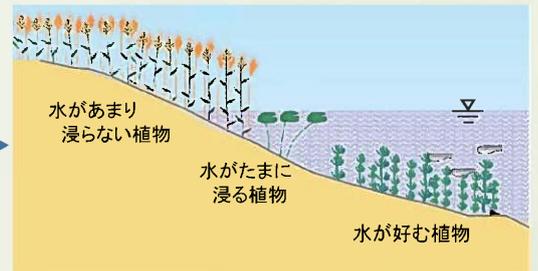
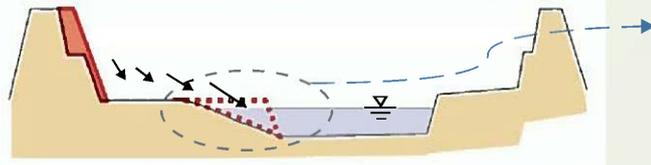
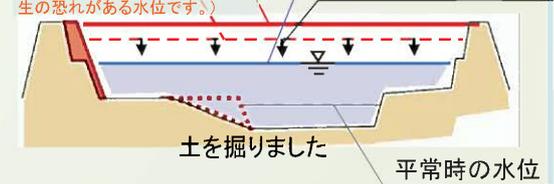
工事をする前の水位

工事をした後の水位

はん濫危険水位

（堤防の決壊など重大な災害発生の恐れがある水位です。）

水位が下がりました



◎工事の様子



土を掘る前



掘った土は、堤防に適した土へ改良の上、すぐ近くの堤防に利用されます。



土を掘った後



掘った土で堤防を太くします。

◎これからの予定について

工事が終わると、川の幅が広がるのと同時に、堤防が大きくなるので、水をスムーズに、より安全に流すことが出来るようになります。

工事はこれから平成27年度まで、中間市から直方市にかけて実施される予定です。今後の予定は追ってご紹介いたします。

3月6日	水	飯塚市	遠賀川サケの放流と水質調査	龍王・山・里・川の会
3月8日	金	飯塚市	遠賀川サケの放流と水質調査	穂波川を愛する会
		香春町	遠賀川サケの放流と水質調査	金辺川を楽しむ会
3月9日	土	嘉穂市	遠賀川サケの放流と水質調査	嘉穂ふるさと探検隊
		小竹町	遠賀川サケの放流と水質調査	小竹町社会福祉協議会
3月11日	月	田川市	遠賀川サケの放流と水質調査	ひこさんがわ夢の会

遠賀川流域だより

発行 国土交通省遠賀川河川事務所
 住所 直方市溝堀1丁目1-1
 電話 (0949) 22-1830
 FAX (0949) 22-2859
 HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会
 電話 0948-22-3535
<http://www.ongagawa.jp/>